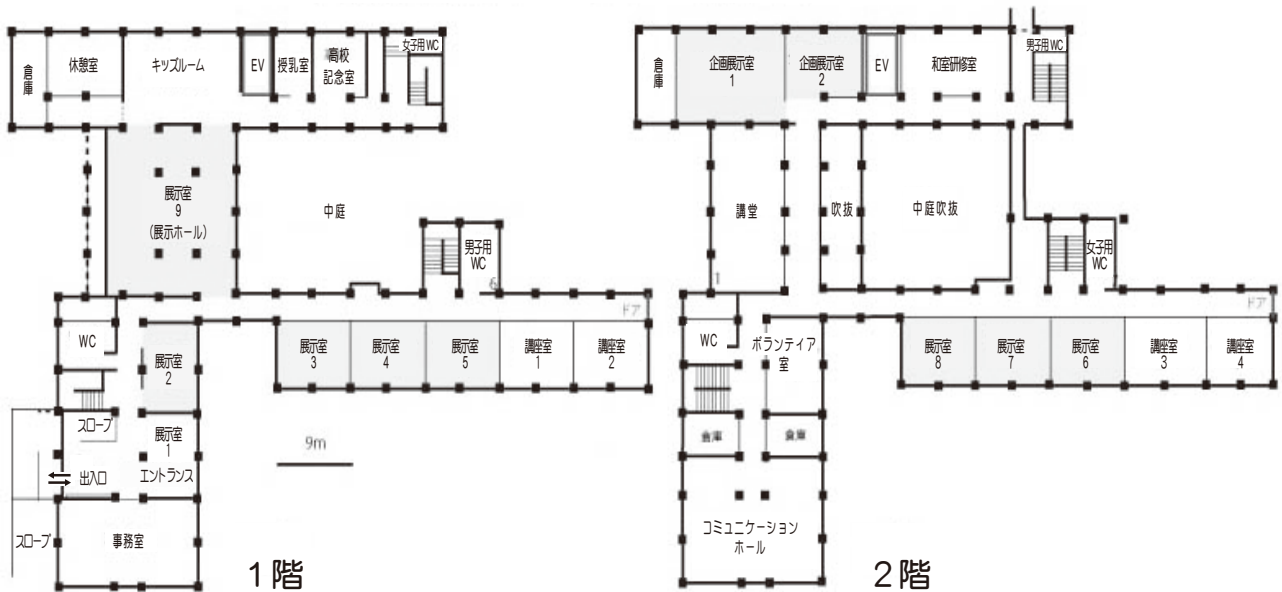


# ふじのくに地球環境史ミュージアムの展示計画の現状

事務局

## ふじのくに地球環境史ミュージアム展示室



ふじのくに地球環境史ミュージアムの展示については、今年度に設計を終了して、来年度施工が行われ、来年度末に展示室が公開されます。県整備課では、教育担当の小室さんと山本さんに、新たに今年度加わった研究員の岸本さんと山田さんがチームとなって、丹青社とともに展示室の基本設計を行っています。私たちNPO自然博ネットは、展示計画について県整備課から求められれば協力をを行い、収蔵標本などの専門的な助言をすることとしています。ここでは、現在までの進行状況について説明いたします。

このミュージアムは、人と自然の関係を考えるところとして位置づけ、来館者には自然と共存の大切さを感じてもらい、ただ単に見るだけではなく、展示物から感じて、さらに考えをひろげてもらえる展示を目標としているそうです。

展示室は、エントランスと展示ホールをふくめて、上の図のように9つあります。最後の展示ホールについては、「100年後も豊かでありつづけるために」というテーマが決まり、現在具体的なプランを検討中です。

入口にあたるエントランス（展示室1）と

その横の展示室2では、「環境史ミュージアム」の概要と「静岡県の自然を育んだ地形」とその形成の概要が展示されます。つづく、1階の展示室3～5は、「ふじのくにの海、大地、人」というテーマで、海や大地の恵みと自然と人のかかわりの歴史を知る内容が検討されています。2階の展示室6と7は、「標本が語る命のものがたり」として、化石や岩石、植物、動物の標本や種類にスポットをあてて、それがもつストーリーを展示していく予定だそうです。展示室8は、「静岡県の多様性に驚く」というテーマで、できるだけ多くの標本を展示する計画だそうです。

しかし、基本設計の内容に関して、詳細な内容や展示する標本、展示手法とデザインに関して、まだ具体的に決まっていない部分が多く、今年度末までにあまり時間がないことから、十分に検討された基本設計ができるかが心配です。私たちが誇れる、博物館の展示設計を完成させるためにも、今後も整備課のみなさんにできる限りの協力をしていきたいと思っております。